

赤い屋根まごころ基金会計報告 2022年度(2022年4月～2023年3月)

【前年度繰越金】 (単位：円)
6,082,952

【収入】 寄付金 95件 14,556,450
(うち、遺贈寄付金10,000,000)
※遺贈寄付金1千万円は使途として臨床研究を強く希望されたため、ご希望に沿って管理いたします。

【支出】
ボランティア活動費 636,623
市民公開イベント費 38,280
図書費 32,086
(外来待合、医療情報の庭、入院患者図書室)
教育ツール 3,565,540
車いす・歩行器 102,550
入院患者図書室 書籍消毒機関連費 16,000
赤い屋根まごころ基金報告書印刷費 83,600
その他備品 89,925
106,040
計 4,654,644

【翌年度繰越金】 15,984,758
(うち、遺贈寄付金10,000,000)

＊ご寄付いただいた方＊

ご氏名の掲載は、承諾をいただいた方のみです(敬称略)

井上 小緒里 熊谷 和子 難波 靖洋 藤田 伶子
景山 英子 佐藤 伸次郎 新田 一郎 矢野 稔
木村 輝男 杉山 信義 早川 由美子 山本 俊和
久保 百合子 道満 和子 福島 正樹 横田 靖弘
和楽会
クラブン株式会社
横浜幸銀信用組合 倉敷支店 支店長 前川太志



2023年6月
当院1棟1階に
銘板を新設しました

高額のご寄付をいただいたご
寄付者様は、院内の銘板にも
お名前を掲出いたします。



赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



100年前に創立した倉敷中央病院が 1927 年に独立採算制へ移行してから、当法人は一民間医療機関として補助金や交付金に頼ることなく、収入の9割以上が保険診療による診療報酬を財源としております。

質の高い医療を地域の皆さまに提供するため努力を重ねておりますが、その実現には継続した人材の育成や高度な医療機器が不可欠です。ただ、国の医療費抑制政策や、医療の高度化に伴う薬剤や医療機器の価格高騰で病院経営は厳しさを増しています。コロナ禍でも地域医療の最後の砦として、日夜を問わず職員が重症患者の治療に当たっています。

地域の医療の質向上のため、誠に恐縮ではございますが、皆さま方にお力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

【赤い屋根まごころ基金について】

当法人は、創立当初より、地域の皆さまへの社会貢献を目的の第一と考えて医療を行っています。

「赤い屋根まごころ基金」は、2004年12月の設立以来、皆さま方からのご厚志をお受けし、皆さまの病院としての活動をよりよくするために役立たせていただいています。

基金の趣旨をご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

基金の取り扱いについて

1. 「赤い屋根まごころ基金」は、次のようなことに使わせていただきます。



① 地域の皆さまの健康づくり、病気の予防など。



② 明るく快適な病院環境にするための整備。



③ 病院で行う臨床研究に対する支援。



④ 職員の教育研修に対する支援。



⑤ ボランティア活動に関する支援。



⑥ ご寄付いただいた方のご要望事項。

2. 「赤い屋根まごころ基金」は、「基金制度運営委員会」で運営いたします。

3. 「赤い屋根まごころ基金」の活動内容(寄付金の受け入れ・使用状況など)については、ご寄付いただいた方をはじめ、広報いたします。

4. 「赤い屋根まごころ基金」へのご寄付は、「すべての人に平等に」という創立者の精神に基づき、誤解を招きやすい入院予定・入院中の患者さん、ならびにそのご家族からの寄付はご遠慮いただいています。個人の方の当法人へのご寄付については、確定申告により所得税の優遇措置が受けられます。当法人または法人施設のホームページをご覧ください。下記事務局にお問い合わせください。

「赤い屋根まごころ基金」のご案内

基金事務局(086-422-0210 経理課)または入院会計窓口
〒710-8602 倉敷市美和1丁目1番1号
https://www.kchnet.or.jp/oharahcf/kifu_akaiyane.aspx



公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

赤い屋根まごころ基金

ご厚志を、未来へつなげる



Message from Chairman

理事長より皆さまへ

公益財団法人
大原記念倉敷中央医療機構

理事長 浜野 潤

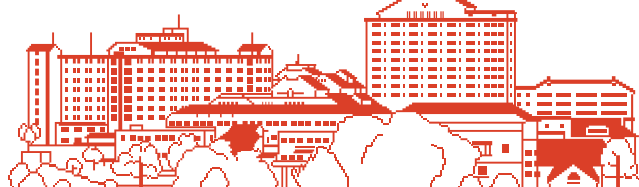
平素は当法人の活動にご理解・ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

新型コロナウイルス禍をはじめ、これからの医療を取り巻く環境の大きな変化に対応していくためには、当法人の長い歴史に培われた伝統を生かしつつ、必要な改革を加えていく「伝統と革新」が必要です。常に創業の理念に戻りつつ、生じてくる諸課題に果敢に取り組むことで、地域の皆さまの健康に寄与していく所存です。

「赤い屋根まごころ基金」は、皆さま方と共に当法人をより良いものにしていきたい、皆さま方と共に歩み、進化する医療機関でありたいという思いで始めた基金でございます。この活動は、当法人が進める社会貢献をより実り多いものとするために大きな力となっています。

基金は専門の委員会でご適切に管理・運営し、快適な病院環境整備のためなどに使わせていただいています。2022年度は全職員向けオンライン医療情報購入の援助ほか、病院ボランティアさんが当院の要望に応え手芸作品を縫うのに使われる工業用ミシン、車いすや歩行器などを購入しました。

今後とも、皆さま方の基金へのお気持ちを十分に考慮して使わせていただきたいと思います。ご支援・ご賛同のほどよろしくお願い申し上げます。



What we do

当法人のトピックス

2022年4月～2023年3月



**クラウドファンディング初挑戦
救急車更新費用の寄付を募る**
2022年7月27日

34万キロ走った旧車両更新に向け、807人の方から車両購入価格1,600万円を上回る50,063,380円のご寄付をいただきました。



洪水対策としての止水壁建設着工
2022年10月

100周年事業の一つとして実施します。9月29日に起工式を執り行い、10月に着工しました。2024年5月に完工の予定です。



100周年記念リレーコンサート開始
2023年2月2日

2023年12月まで毎週木曜日、セントラル・パーラーで開催します。第1回は当院放射線診断科 小山主任部長がピアノを披露しました。



美和保育園 移転・新築工事着工
2022年10月

受入園児の増員や耐震性の確保、保育環境向上などにより子育て職員の早期職場復帰環境の充実を目指し着工しました（2023年5月に竣工）。

新型コロナとの戦い

**第7波、陽性者数大幅増・
帰宅困難な陽性患者さん
に外来オーバーナイトで
対応**
2022年7月～

1日当たりの岡山県内陽性者が最大4,000人を超えた第7波。重症度は高くないものの帰宅困難な陽性患者が増加し、8/9から外来のかたで経過観察して翌日他院へ紹介する運用を開始しました。



**第8波、専用病床の2倍の患者さん
を受け入れた日も**
2022年12月～

救急搬送困難事例が増加、12月中旬には当院に救急搬送が集中する事態も起こりました。コロナ入院患者さんは多い日で専用病床数の2倍を超え、一般病棟への後方受入れの運用で対応。年末年始に実施された岡山県の自宅療養者への往診事業にも協力しました。

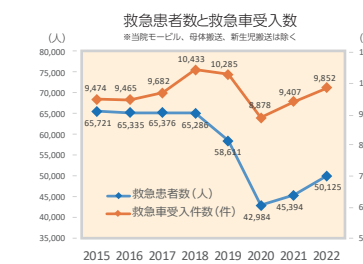
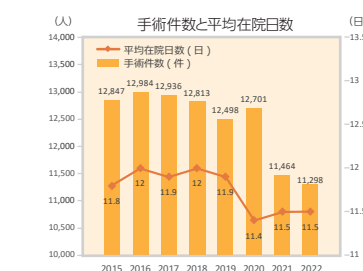


results

診療実績

一倉敷中央病院 2022年度

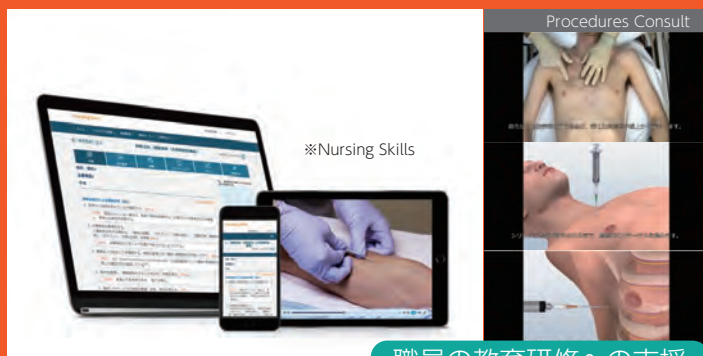
- 入院延患者数 348,283人
(1日平均 954人)
- 外来延患者数 623,046人
(1日平均 2,502人)



ご厚志をかたちに ー2022年度の基金活用実績より

全職員向け オンライン医療情報購入の援助

全職員の教育研修支援目的で導入している5つのツールについて、赤い屋根まごころ基金から2022年度の契約を援助しました。
SFX（文献検索の結果から本文へつなぐサービス）
医中誌 Web（国内医学論文情報のインターネット検索サービス）
Procedures Consult（臨床手技動画集）
Nursing Skills（看護手順動画集）
SafetyPlus（医療安全動画集）



職員の教育研修への支援

ボランティア室の老朽化したミシン1台を更新

手芸サークルの皆さんは患者さんのために、活動をされています。「小さなベビー服」をご存知の方もいらっしゃるでしょう。ボランティア室には3台ミシンを設置していますが、いずれも20年ほど前の製品で、このうち1台が老朽化により使えなくなったため、赤い屋根まごころ基金を活用して購入いたしました。ミシンで製作されるのは、ボランティア発案の抗がん剤治療中の患者さんに差し上げる帽子、NICUに準備しておくベビー服、小児科病棟に入院中の子どもたちのためのアイテムや季節のタペストリーや、患者さんの療養環境を温かく安らげるようにと作られるカバー類など、多岐にわたります。このほか看護本部からの要望を受けて、既成の品の補修も行っておられます。皆さんからのご厚志は、ボランティアさんのお力により広く、患者さんのもとへ届いています。



手芸サークルの皆さん



ボランティア活動に関する支援

これからのとき ～大切な方を亡くしたあなたへ

大切な人との別れはつらく悲しいことです。残された家族は悲しみや怒りをはじめ、さまざまな悲嘆反応を体験し、ご自身の体験が異常なのではないかと不安を抱くことがあります。四十九日を迎えられた頃に緩和ケア病棟からご家族へ手紙を差し上げています。同封の悲嘆の小冊子（これからのとき 大切な方を亡くしたあなたへ）により悲嘆反応やプロセスについての知識を得ることが、悲しみの中にあるご家族の何らかの支えとなることを心から願っています。赤い屋根まごころ基金からこの活動を支援しています。

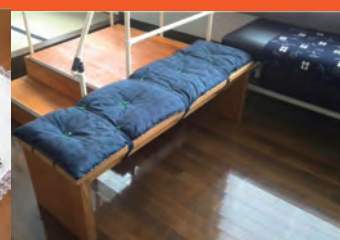


患者さんのための活用

ミシンで製作いただいているアイテムの一部をご紹介します



抗がん剤治療中の患者さんのための帽子



緩和ケア病棟 憩い室のベンチ用座布団



季節のタペストリー（小児科病棟へ寄贈）



ポータブルトイレふたのカバー



乳児の術後寝着